Google for Education

Google Workspace for Education を導入した 大阪府立桜塚高等学校 生徒の学び向上と教員の業務効率化に向けた 取り組みを深める

大阪府立桜塚高等学校は、大阪府北部の豊中市にある創立 84 年の伝統校です。同校では生徒の学力と情報活用能力の向上、および教員の負担軽減に向け、Google Workspace for Education（以下、Google Workspace）と 1 人 1 台の Chromebook を組み合わせた ICT 教育に取り組んでいます。Google Workspace 導入の経緯から実際の活用まで、同校の ICT 教育を推進する立場にある 2 人のキーパーソンに話を聞きました。

大阪府立桜塚高等学校
〒561-0881
大阪府豊中市中桜塚 4-1-1
https://www.osaka-c.ed.jp/sakurazuka/

1937 年大阪府立第一四高等女学校として開校し、創立 84 年を迎える。豊中市への移転と学制改革を経て、1948 年に現在の校名に改称した。地域に貢献し、世界を舞台に活躍する広い視野を持ったグローバル リーダーの育成が目標。確かな学力を身につけながら、知・徳・体のバランスがとれた人間性を育み、人間力を培っている。2016 年には英語力を中心とする文系、および理数系それぞれの専門コース「グローバル スタディ（GS）コース」を設置した。生徒数は 1,021 人。

Chromebook 約 1,040 台

01

Google Workspace の活用を促進するため 1 人 1 台環境を目指す

同校では 2017 年 3 月まで、全校で 42 台の iPad を用意し、理科の実験や観察を中心に利用していました。続いて 2017 年度に校内 Wi-Fi 環境を整備。さらに翌 2018 年度には Google Workspace を導入し、教育への ICT 活用が本格始動します。

この 2018 年度から教頭を務める内山勝則氏は、当時の状況をこう振り返ります。

大阪府立桜塚高等学校

教頭
内山 勝則 氏

「前校長が教育における ICT 活用に意義を感じ、まず iPad、続いて Google Workspace と、導入を積極的に進めてきました。加えて教員の業務効率化、働き方改革に ICT を役立てたいとの思いもありました。ただ、iPad は台数が 1 クラス分で、まだ全校的な広がりは見られませんでした。Google Workspace も生徒個人の BYOD で利用するしかなかったため、1 人 1 台端末の検討をスタートしたのです」

そもそも同校は、なぜ Google Workspace を選択したのでしょうか。情報部の部長として ICT 教育の技術的な面を牽引する溝口竜二氏は、背景を次のように語ります。

「2017 年、近隣で Google Workspace を利用している学校に話を聞きに行った際、Google フォームでアンケートの実施から回収・集計まで簡単に行えることや、Google Classroom で紙の配布物を減らせることを知り、これは便利に使えるという印象を持ったことがきっかけでした」

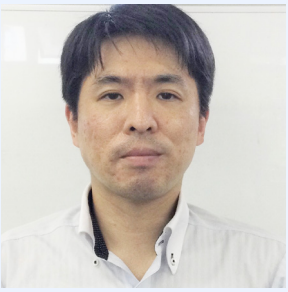
他社サービスとも比較した結果、Google Classroom の利便性を評価する教員の声が多かったことに加え、大量のファイルを保存可能なクラウド スペースを無料で使えることも決め手となり、2018 年度から Google Workspace の利用をスタートします。

しかし前述のように生徒個人のスマートフォンが中心となっており、デジタルツールに不慣れな教員も多かったため、利用はさほど進みませんでした。そこで夏頃から、内山教頭と溝口氏を中心に 1 人 1 台の検討を開始します。

実は当初は、それまでに利用していた iPad による 1 人 1 台環境が念頭にあったと溝口氏。その iPad に Windows 端末も加えて検討を始めたところ、「Google の Chromebook という選択肢もある」ことを知ります。

「調べていくと、iPad とは異なりキーボードが付いていることや、大量の端末の管理を容易にするモバイル デバイス管理（MDM）を含めて安価に導入できることに魅力を感じました」（溝口氏）。さらに、起動が速く操作が簡単なこと、クラウドベースであるため充電切れや学校へ持ってくるのを忘れた際にも代替機で即対応できること、そして、導入済みの Google Workspace とアカウントで紐付けされ、マッチングが良いことも評価し、年が明けて 2019 年 1 月に導入を決断しました。

大阪府立桜塚高等学校



情報部 部長
溝口 竜二 氏

02

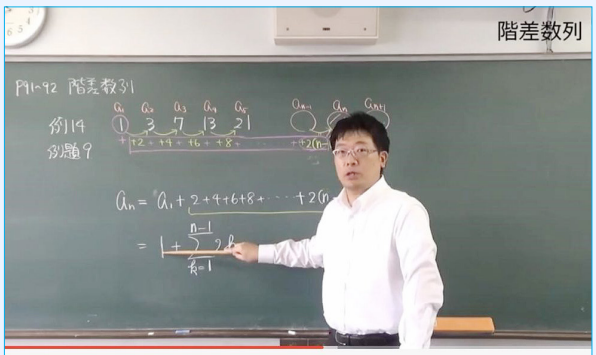
学びを止めないためのツールとして Google Classroom が活躍

実際の導入は、2019 年 4 月の新入生から購入。以降、学年進行で新入生に導入する形となり、2021 年度で全学年の 1 人 1 台環境が実現しました。ちなみに、これからの時代に向けた情報活用能力育成に 1 人 1 台の端末が必要であることを学校説明会等で周知してきたため、端末代負担等に関して保護者からの異論はほとんど出なかったといいます。

生徒には新入生オリエンテーションで端末を配布しました。同時に NTT 西日本による操作方法の簡単な説明会も実施しています。ただ 2020 年度については新型コロナウイルスの影響で全新入生を一堂に集めることができなかったため、生徒を小人数ずつに分け、説明会は Google Meet で NTT 西日本とつなぎ黒板に投影する形で実施しました。

1 人 1 台環境の実現後は、総合的な探求の時間をはじめとする、さまざまな協働授業、ホームルーム、クラブ活動等で Chromebook と Google Workspace を活用しています。Google Classroom で学年ごと、学級ごとといった多様なクラスを設定し、生徒も教員も積極的に参加できる体制を整備。相互の連絡ツールとして、また授業等で使う資料や課題の配布ツールとして活躍しています。

各授業では Google スライド、Google ドキュメント、Google スプレッドシートが調べ学習や発表、共同編集等に使われています。



Google フォームも多様な場面のアンケートで活用しているとのこと。そのほか毎朝 10 分間、読解力等をトレーニングする同校独自の取り組み「朝学」（読解力育成）の成果を測る確認テストでの利用も

2021 年度から始めました。

このように ICT 活用がかなり進んでいる同校ですが、2019 年度に Chromebook を初めて導入した頃は、利活用はそれほど進まなかったといいます。

「当時の Wi-Fi 環境の問題で、Google Workspace につながらないことがありました。ICT に慣れていない教員の授業でそうしたトラブルが 1 度でも起こると、次回以降も『またつながらないのでは』という不安がどうしても生まれるので、積極的に使う教員はまだ一部に限られていました」と内山教頭。しかしその状況も、2020 年春の新型コロナウイルスによる臨時休校措置を契機に大きく変わったといいます。

「当校にはすでに Google Workspace があり、Chromebook も 2020 年度時点で 1、2 年生が 1 人 1 台持っていたので、Google Classroom を学習保障のツールとして徹底活用すると同時に、オンデマンドのオンライン授業も実施しました」（内山教頭）。ちなみに、授業をリアルタイム配信ではなくオンデマンドにしたのは、保護者がテレワークをしているなど家庭の事情でリアルタイムに参加できない生徒がいることを配慮したためです。

のちに Google フォームでアンケートを行ったところ、休校期間の生徒たちの Google Classroom 使用率は 100 %で、オンライン授業により学習量が増えた生徒が 93 %、オンライン授業が休校中の生活リズムづくりに役立ったと答えた生徒が 92 %と、大きな成果が得られました。その後も、欠席した生徒に授業の様子を Google Meet で配信する、欠席した部分の補講をオンラインで行うなど、自らのアイデアで学習保障に利用する教員もいるとのことです。

03

ICT 活用で、生徒の主体的学びと教員の業務効率化をさらに深める

ICT に慣れない教員への対策としては、溝口氏が次のようなエピソードを語ってくれました。

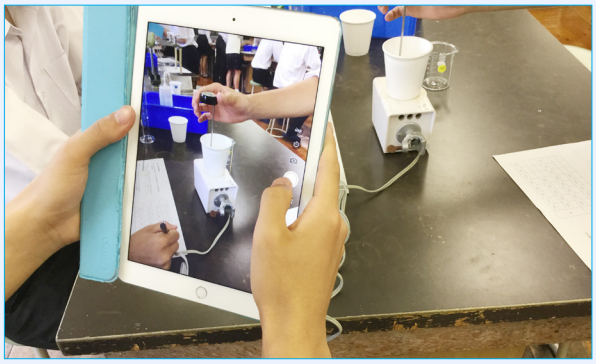
「授業でパソコンを積極的に使う国語教員が、活用方法を同じ国語科の教員に共有しているところを見ました。教員全体を対象とした研修会では細かな対応が難しいのですが、各教科でこのようにリードしてくれる人材が 1 人でもいれば、慣れていない教員も身近で疑問を解消でき、活用はさらに広がっていくだろうと感じました。また、ある先生は日直日誌を Google Classroom でオンライン化しました。紙の日誌では読む生徒も限られますが、Google Classroom なら生徒全員が簡単に見ることができるので、情報共有のユニークな試みとして他の教員にも共有してもらいました」

Google Workspace 導入から 4 年目、Chromebook と合わせた活用のスタートから 3 年目に入り、生徒とのコミュニケーションや授業での教え方の選択肢が増えたことを実感していると溝口氏。教員の業務効率化についても、課題、資料等のペーパーレス化が進んだことに加え、職員会議や教員間の資料でもペーパーレス化を実現し、印刷･コピー･配布等に関する労力はかなりの削減効果が出ているといいます。

その一方、授業準備の手間は現時点でそれほどは変わらず、提出物の文章の中身など細かなところを見て採点する仕事は従来通りであるため、教員の業務負荷軽減については今後さらなる工夫が必要とのこと。「ICT をどのように活用すれば生徒たちの学力向上につながるのか、そして教員のさらなる業務効率化につながるのか、それが今後のテーマになります」と溝口氏は話します。

最後に内山教頭は ICT 教育のさらなる浸透に向け、期待と決意を語ってくれました。

「ICT は使うこと自体が目的ではなく、生徒が主体的に考え、学んでいく力を伸ばすためにどう使えばいいかを考えなければなりません。そのためには具体的な活用事例が参考になるので、有用な情報が今後広がればうれしいですね。私たちとしてもそうした事例を取り入れつつ、切磋琢磨を重ねながら、取り組みを加速させていきます」



Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える
教育テクノロジーソリューションです。

Google for Education の特徴
- 簡単操作
- 手ごろな価格
- 高い汎用性
- 高い効果

1 chromebook
教育向けに設計され、授業向けに開発された
軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

2 Google Classroom
教師と児童生徒向けに構築された
学習プラットフォーム

3 Google Workspace for Education
時間や場所を問わず学校全体で共同利用できる
クラウド型教育プラット フォーム

4 Chrome Education Upgrade
1 つの端末から同じドメインのすべての
Chromebook を設定
シンプルなクラウド型管理コンソール

Google for Education

お問い合わせ事務局 0120-905-860（平日 9:00-18:00） gfe-jp-isr@google.com

Google for Education の詳細については、右記 URL、もしくは QR コードからアクセスしていただくか、同ページ「お問い合わせ」よりお問い合わせください。
© Copyright 2021 Google
Google フォーム、Google Classroom、Chromebook、Google Meet、Google スライド、Google ドキュメント、Google スプレッドシートは、Google LLC の登録商標または商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

お問い合わせはこちらから
https://g.co/edu